



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第458号 2017年12月24日発行

聞いた者は皆、羊飼いたち
の話を不思議に思った。

(ルカ2:18)

ルカによる福音書2章8、
21節は、クリスマスには必ず
読まれる聖書日課の一つです。

このクリスマスの出来事は、
イエスが生まれると同時に書
かれたものではありません。
イエスが十字架上で殺された
後、キリスト教が成立してか
ら、さらに50年以上経った頃
に書かれたのです。

ではクリスマスの
出来事は、なぜそ
れほど後になって
から書き下ろされ
たのでしょうか。

語り手は聞く人読
む人に、何を伝え

たかったのでしょうか。本当
に全部その通り起きた事実だ
と言いたかったのでしょうか。
語り手は、この出来事が事実
か作り話か、そういうことと
は全く違った次元のことを伝
えたかったのです。何を読者
に伝えたいか、登場人
物を通して見つけてみましょ
う。

まず羊飼いたち。彼らはそ
の晩、夜通し羊たちの見張り

番をしていました。民全体へ
の喜びの知らせ、すなわちイ
エス誕生の知らせは、天使に
よってまず羊飼いに知らされ
ました。彼らは非常に恐れま
すが、天使が立ち去った後、
天使が言ったことが本当かど
うかを確かめに行き、自分の
目で確かめるとそのことを周
りの人々に知らせ、神を賛美
しながら帰っていきます。彼
らは本当に好奇心旺盛で純真



クリスマスの不思議

主教 アンデレ 磯

晴久

な心根をもった人々です。

次は、羊飼いの話を聞いた
人々に注目しましょう。彼ら
にとって羊飼いの報告は不思
議だったのです。何が不思議
だったのでしょうか。救い
主メシアが、「布にくるまっ
て、飼い葉おけの中に寝てい
る」ということです。今自分
たちを苦しめている大帝国ロ
ーマを打倒してくれるメシア
は、英雄ダビデより強い武将

のはずです。そのメシアがお
産には適していない家畜小屋
で、飼い葉おけの中に寝てい
るなんて、そんなはずはない
常識では考えられない。だか
ら人々は不思議に感じたので
す。

もう一つ不思議がありまし
た。それはメシア誕生の知ら
せが、まず最初に羊飼いたち
に与えられたということです。
私たちが羊飼いと聞くと、ど
こか牧歌的でいい
なと思います。と
ころが当時のユダ
ヤ人の常識では、
一番汚れに染まり
やすい職業だった
のです。羊を追っ
て野山を駆け巡る

わけですから、いっどこでど
んな汚れた物、たとえば動物
の死体に触れてしまうかもし
れない。触れば自分も汚れて
しまう。きつちりと律法を守
れない羊飼いに、天使が現わ
れて、喜びの知らせを告げる
とは、当時のユダヤの人々の
常識に反することだったので
す。羊飼いに最初の喜びの知
らせが与えられたということ、
これもまた当時の人々にとっ

て不思議なことだったので
す。最後に見つめたのはマリ
アです。彼女は、これらの出
来事をすべて心に納めて、思
い巡らしていたとルカは伝え
ています。不思議の次元に留
まらずにそれを超えて、その
意味を考え始めているマリア
聖書の語り手は、読者に、つ
まり私たちに、イエスがユダ
ヤ人の常識とはまるで違った
救い主メシアであることを、
指し示したのです。そして
これから、イエスの生涯が始
まります。ユダヤ人の常識か
らすると不思議でならないイ
エスの活動が、これから始ま
ります。語り手は、私たちが
マリアと共に、その不思議な
イエスの生涯を思い巡らすよ
うに、イエスが私たちのとこ
ろにやって来られた意味を思
い巡らすように、と招いてい
ます。

クリスマスの出来事は、神
様の方から「やってきた」不
思議な出来事でした。その意
味を思い巡らすように、私た
ちは招かれています。

主教

第119(定期) 教区会 開会演説

私たちの「居場所」を祈りと礼拝の中に

主教 アンデレ 磯 晴久

2018年の年間聖句として、「主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である。」(ネヘミヤ8:10)を選びました。私たちの喜びである主イエス・キリストを分かち合い、どのように人々に信仰を

勤労感謝の日です。本会議にご参加下さったこと、日ごろの皆様の教会でのお働き、教区諸活動へのご支援とご理解に対して感謝申し上げます。

〈世界・日本〉

紹介していくかを皆様と祈り求めていきたいと願っています。

世界の状況は、戦争・紛争・テロ・難民流出・病気・飢餓に覆われています。多くの困難を抱えた不安定な地域で、少数民族やキリスト教の小規模な共同体がテロの標的になっています。私たちはこうしたことに對して無関心でないようにしましょう。また日本政府も、戦争出来る国へと大きく舵を切ろうとしています。日本社会全体が、排外的で不寛容な世の中になっています。私たちの子どもたちのためにも、皆様と共に平和を祈り求めて参りたいと存じます。平和憲法を大切にして参りたいと思います。

〈感謝〉

日本聖公会大阪教区第119(定期) 教区会開催にあたり、感謝を申し上げます。今日は

各地の地震や豪雨の被災地では、今もなお復興にはほど遠い厳しい現実が、被災者の上にのしかかっています。また原発事故による目に見えない放射能汚染は、多くの人々を恐れと不安、危険の中に置き去りにしたままです。甲状腺がんの増加も心配です。祈りと支援を続けて参りましょう。

〈大阪教区の現状〉

大阪教区には教会22、学校3、病院1、社会福祉施設4、NPO法人聖公会生野センターがあります。教役者数は、主教1人、司祭14人、宣教協働者の司祭2人、執事1人、神学生2人、囑託司祭8人となっています。齊藤壹司祭には牧師館に定住して頂いています。どうか考えても来春すべての教会・関係諸施設に教役者を派遣することは、現時点では不可能です。どうしても定住者がいない教会が出て参ります。また将来を見据えま

しても、教役者のチーム作り、多様な教役者のあり方、教会間の協働や合併を、しっかりと考えないといけない状況です。教会補助金にも限りがある中、危機感をもって各教会と、また教会間で話し合っ

て、去る5月5日、合同礼拝を行い、特別協働教区関係を結びました。さらに協議を深め、講壇交換・信徒の交流・人事交流などを通して、協働関係を築いて参りたいと願っています。本日、私たち大阪教区の教区礼拝に関してアピールがありますが、京都との合同礼拝もいろいろな形で継続していくことが大切だと考えております。大阪教区は京都教区教育部とジョイントして、北小松で小学生キャンプやJ'sキャンプを実施しておりますが、京都教区の教役者の多くは、北小松でのキャンプ体験が後の聖職への道のきっかけとなっています。「北小松」が聖職への道の合言葉です。同じようなことが神戸教区にも見られます。磯は9月23日まで神戸教区の管理主教を致しましたが、教役者の多くが神戸教区中高大生大会の経験者です。今も教役者挙げて中高大生大会を支援しています。「中高大生大会」が聖職への道の合言葉になっています。若者の成長にはキャンプはなくてはならないものです。大

き化学反応が起ると信じて、去る5月5日、合同礼拝を行い、特別協働教区関係を結びました。さらに協議を深め、講壇交換・信徒の交流・人事交流などを通して、協働関係を築いて参りたいと願っています。本日、私たち大阪教区の教区礼拝に関してアピールがありますが、京都との合同礼拝もいろいろな形で継続していくことが大切だと考えております。大阪教区は京都教区教育部とジョイントして、北小松で小学生キャンプやJ'sキャンプを実施しておりますが、京都教区の教役者の多くは、北小松でのキャンプ体験が後の聖職への道のきっかけとなっています。「北小松」が聖職への道の合言葉です。同じようなことが神戸教区にも見られます。磯は9月23日まで神戸教区の管理主教を致しましたが、教役者の多くが神戸教区中高大生大会の経験者です。今も教役者挙げて中高大生大会を支援しています。「中高大生大会」が聖職への道の合言葉になっています。若者の成長にはキャンプはなくてはならないものです。大



磯晴久主教(右)と書記の義平雅夫司祭(左)

先日11月14日イラン・イラク国境付近の山岳地帯で地震

〈京都教区との協働〉

京都教区との合併を視野に入れた教区間協働に関しては、課題は沢山ありますが、よ

くても、教役者のチーム作り、多様な教役者のあり方、教会間の協働や合併を、しっかりと考えないといけない状況です。教会補助金にも限りがある中、危機感をもって各教会と、また教会間で話し合っ

阪教区にも聖職への道の合言葉になる活動が必要です。

また今教区会でご承認を頂けましたら、大阪教区は教区の執行機関として、京都教区と同じように総務局・宣教局・財政局の3局体制に移行します。すでに、3局長候補者との話し合いを始めております。従来の教務局が廃止され、教務局長の役割は総務局長が担うこととなります。

〈学校関連〉

関係学校では、泉ヶ丘にあるプール学院大学の教育学部を桃山学院が継承・統合し、2018年4月より桃山学院教育大学として出発いたします。プール学院短期大学は、同じ泉ヶ丘に3年間共存して、教育活動を展開します。プール学院短期大学のためお祈りください。福祉施設では、東光学園が来年創立100周年を迎えます。ご加禱ください。

〈教会生活〉

2017年も本教区会に至るまで、各教会を堅信式あるいは巡回で訪れることが出来ました。皆様が祈りながら心を尽くして、教会運営・宣教・伝道活動に当たってください。

さっている姿に触れ、心から敬意を表するものであります。と同時に、声なき声(悲鳴)も届いております。「高齢化、若者がいない、財政的にしんどい、具体的な宣教方策を決めることが出来ない、教会内のコミュニケーションがうまく取れていない、どうすればいいの、自信を失っている」

大阪教区の課題は、信徒の減少、宣教力・伝道力低下、高齢化、聖職不足への対処、青少年の育成、財政的なピンチ：そして何よりも人です。管区では、2022年に宣教協議会開催が予定されています。

第119(定期) 教区会 報告と議案の記録

11月23日(木/休)午前9時より、主教座聖堂・川口基督教会において第119(定期)教区会が開催された。開会礼拝・聖餐式の後、議案が開かれ議場を信徒会館に移した。議長は磯晴久主教、書記は義平雅夫司祭、金山将司執事。教役者議員15人、信徒代議員36人が出席した。

諸報告が行われ、続いて以

ますが、2023年は大阪教区成立100周年の年となります。中長期のビジョンやプランを皆様と考えていきたいと願っております。

私たちには大きな救いの約束があります。神の国の約束です。一方日々の生活の中では、小さな救いが必要です。現代においてそれは「居場所」ではないでしょうか。職場の2、3割の方はうつ状態にあるといわれています。自分の居場所を見出し得ない多くの人々がいます。そうした中で、教会の役割は大きいと思います。ただし、私たちは欠

け多き罪びとですから、信徒の交わりには限界があります。今一番気にしておりますのは、教会の雰囲気です。安心感・温かさがあるか、是非点検して頂きたい。私たちの「居場所」を、祈りの中に、礼拝の中に、聖餐式の中に、神様の懐の中に、感じたいと存じます。基本的なことですが、祈り・礼拝を大切に、工夫や充実が必要で。最初に申しましたように、「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である」を覚えながら、歩んで参りましょう。

委員選挙の結果、教役者は内田望司祭、竹林徑一司祭、義平雅夫司祭(次点)、千松清美司祭)の3人が、信徒は辻節子さん(石橋聖トマス)、小池義郎さん(芦屋聖マルコ)、豊川雅章さん(大阪聖愛)、豊川雅章さん(大阪聖愛)(次点)、畑野研太郎さん(芦屋聖マルコ)の3人が当選された。

併せて行われた、日本聖公会総会代議員選挙の結果、聖

職代議員 内田望司祭、竹林徑一司祭(補欠①千松清美司祭、②松平功司祭)、信徒代議員 辻節子さん(石橋聖トマス)、小池義郎さん(芦屋聖マルコ)(補欠①豊川雅章さん(大阪聖愛)、②畑野研太郎さん(芦屋聖マルコ)が当選された。また会計検査委員に、春名英夫さん(恵我之荘聖マタイ)と山本多津子さん(芦屋聖マルコ)が指名され、承認された。

閉会祈禱をもって15時25分に閉会した。なお、開会聖餐式信施48,800円は聖公会生野センターの働きのために献げられた。

教区会終了後、直ちに第1回常置委員会が開催され、互選の結果、常置委員長は内田望司祭、書記は小池義郎さんに決定。また、磯主教から3局長について諮問を受け、総務局長に内田望司祭、宣教局長にウイルソンウォーレン司祭、財政局長に太田幸彦さん(聖ルシヤ)を任命することが同意された。この教区会によって新しい大阪教区3局体制が始まった。

大阪教区3局体制始動

就任にあたって 3局長のあいさつ



総務局長

司祭 テモテ 内田 望

第119 (定期) 教区会後に総務局長に指名されました司祭

の内田です。どうぞよろしく
お願いいたします。山本眞・
前教務局長から総務関連の引
継ぎを受け、また、大阪教区
としても初めての3局体制で
もあり、どこまでが総務の仕
事なのかといった戸惑いの中、

財政局長



ヨハネ 太田 幸彦

主のみ名を賛美します。

2017年度から財務委員
長の任を前任の小池義郎兄か
ら引き継ぎ、1年間財務委員
の皆さんと共に活動して来ま
した。

そして2018年度からは
3局体制の中の財政局として
新たに活動を始めます。

具体的な働きの内容はほと
んど変わりませんが、教区の

組織の中の位置付けが大きく
変わります。これまでは「主
教―教務局―総務部―財務委
員会」でしたので、総務部や
宣教部の各委員会との繋がり
は強いものではありませんで
した。今後は「主教―財政
局」となり、財政局、総務局、
宣教局とが主教の下に横並び
となります。定期的に3局で
の打ち合わせを行いますので、

教区全体の動きに財務的な協
力がより適切に行えるよう
なると考えています。

各教会の財政状況は年々厳
しいものとなって来ています。
信徒の皆さん、特に会計担当
の方はご苦労をされているこ
とと思います。この状況を好
転させることは簡単ではあり
ませんが、各教会と3局が連
携して、信仰の志を強くし、
喜びをもって新たに進んで行
きたいと願っています。どう
ぞよろしくお願い致します。
(おおた ゆきひこ・聖ルシ
ヤ教会信徒)

教区事務所職員とも密な連絡
を取りつつ、スタートを切り
ました。

総務の働きにおいて、今一
番大切にしなければならぬ
ことは、今年、特別協働教区
関係が発足した京都教区との
働きが来年以降ますます活発
になり、実り豊かなものとな
りますように宣教局、財政局
と歩みを合わせてサポートし

ていくことだと考えています。

普段のわたしたちの生活の
暦と、教会の暦に沿った行事
に追われつつの働きがなされ
ることになるでしょうが、主
の導きのもとに与えられまし
た貴い務めを果たしていくこ
とができますようにお祈りく
ださい。

(うちだ のぞむ・堺聖テモ
テ教会牧師)

宣教局長



司祭 ウイルソンウオーレン

先月行われた大阪教区第119
(定期)教区会の決議によって、
大阪教区は新しい「3局体制」
が開始しました。そこで、宣
教局長として任命を受けまし
たウイルソンと申します。

宣教局の任務は幅広く、奥
深いことであり、教会の基盤
的な働きであります。以前の
「宣教部」から、「宣教局」に
移行した各委員会等のプログ
ラムや働きを守りながら強化
することが大切だと考えてお
ります。そして、「日本聖公

会(宣教・牧会の10年)提言」
を参照し、大阪教区成立10
0周年(2023年)に向か
って、教区の宣教企画を再確
認し、教区全体の意識・能力
をより高めるように努力しま
す。

大阪教区がキリストによる
愛を益々伝え、分かち合うこ
とができますようにとお祈り
いたしております。

(菅屋聖マルコ教会牧師)



大阪教区連合男子会 一日修養会

二日にわたり 植松主教と語る

イサク 豊川 雅章

大阪教区連合男子会による一日修養会が10月20・21日に北海道教区主教・植松 誠師父をお招きして開催されました。

20日の夜、「植松誠主教と語る会」に60人が大阪聖愛教会に集まり、主教から、「教会の男達が組織を作り、共に

祈り・語らい・研修する。ものすごい宝」と励まされました。

21日の講演会は、100人が川口基督教会に集められました。北海道教区の主教巡回は、土曜日に札幌を出発し、日曜日の朝、オホーツクの紋別で礼拝、午後には海岸線を走り、夜

に稚内で礼拝、月曜日の朝に札幌に戻るのだそうです(約85kmで東京―広島距離)。

巡回を1回逃すと年に1度しか会えない。主教を迎える教会に、「主教様ようこそ！」の横断幕があり、婦人会は、数週間前から愛餐会の献立を考えるとのことでした。北海道



一人ではできません

使徒言行録 中での使徒

の働きを見ますと、単独で宣教旅行をした人はほとんどいません。二人一組が基本でした。大阪教区の草創期、ウィリアムズ主教も一人ではなく、リギンズ司祭と共に来日されました。聖職は、本人の才能や努力もさることながら、同労者や家族の陰ながらの応援

があつてこそ歩むことができます。友人や同労者、教会関係者の励ましに勇気づけられて前に進むことができます。私自身、恵我之荘聖マタイ教会の時代、手に負えないようなことが起こった時、当時大阪聖三一教会の牧師であった植松誠司祭が夜遅くにも関わらず飛んで来て下さったことがありました。聖職の道30数

年を振り返って、こうした助けがなかったら、途中で挫折した可能性が大きいというのが実感です。

しかし今、複数で伝道者・宣教者を派遣することはできません。それどころか一人でも複数の教会を管理せざるを得ない状況です。そのような中で、聖職が孤独に陥らないために、独善的にならないために、信徒との協働が不可欠です。具体的な宣教プランを皆様はお望みかもしれません

が、何より聖職と信徒の協働、それによってしか、牧会・宣教活動の活性化は望めません。そうでないと牧師と信徒の賜物・タラントが、土に埋もれた状態が続いてしまいます。「互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ13・34)という主イエスのことばを憶えつつ。

(主教アンデレ磯晴久)

教区の信徒と主教の関係を羨ましく感じました。主教は「大阪の皆さん、磯主教を大切に。お祈りを持って迎え入れて下さい」と話されました。

宣教については、「基本の繰り返しですが宣教の力。主日礼拝を守る。聖書を読む。祈る。まず自分が聖書を読んで祈って主日礼拝に行き、それを喜んで生きる。困難や絶望の中でも、光を信じて生きる。信徒たちのような生き様に、私は計り知れない影響を受けて今日まで歩んできました」と語られました。

そして、信仰の継承については、親から伝わる「今日は日曜日・特別な日」「子供の頃、いつもはお水だけど、日曜日の朝はお湯で顔を拭いてもらった記憶がある」「あなたの背中を家族は見ています」と語られました。一同の心が熱くなった修養会でした。最後に、愛餐会のご奉仕くださった川口基督教会と大阪聖愛教会の両婦人会の皆様にお礼申し上げます。

(とよかわ まさあき・大阪聖愛教会信徒)



大阪教区婦人会の修養会は秋の長雨の切れ間の10月18日(水)・福音記者聖ルカ日に西宮聖ペテロ教会で開かれました。出席者は17人で席上献金は「平和のためのヒロシマ通訳者グループ(HIP)」に献げられました。前半は松岡虔一司祭の被爆体験をもとにしたお話を聞き、その中で愛唱聖歌を皆で歌いました。後半は伊藤純子さんのパイプオ

教区婦人会

秋の修養会が西宮聖ペテロ教会で

松岡虔一司祭の被爆体験と

伊藤純子さんのオルガン演奏

ベタニヤのマリヤ 工藤はるみ

ルガン演奏を堪能しました。松岡司祭は長崎で育ちました。第2次世界大戦中、お父様は長崎聖三一教会の牧師をしておられ、外国人の信徒も多くいて外出時には特高警察が尾行する状態であったこと、統制のため毎日夕禱を暗い中、家族で密やかに言い、聖歌31番を歌ったことをお聞きし、当時の様子が偲ばれました。松岡司祭が中学1年生の8月9日、中学校で穴掘りを課せられていましたが、なぜかその日は早く帰らなくてはならないという気持ちになり、爆心地にあった長崎鎮西中学校をたまたま早退したため一命を得られました。教会と牧師館は消失しお母様は7年後に43歳で、お父様はその後69歳で残留放射能の影響で急死されました。想像を絶する悲惨な体験ですが、松岡司祭の

**2018年
キリスト教一致祈祷会**

— 今年度のテーマ —

「主よ、あなたの右の手は力によって輝く」
(出エジプト 15:6)

① 大阪の集い

日時 1月13日(土) 14時~16時
会場 カトリックセンターサクラファミリア
(地下鉄御堂筋線中津駅下車)

司式 ミケランジェロ・アラゴン神父
(カトリック大阪大司教区梅田ブロック)
説教 井上隆晶牧師(日本基督教団都島教会)

② 神戸の集い

日時 1月20日(土) 14時~16時
会場 日本基督教団岡本教会
(阪急神戸線岡本駅下車)

司式 赤川祥夫牧師(日本基督教団岡本教会)
説教 中村 豊主教(日本聖公会前神戸教区主教)

連絡先 小出裕司(大阪聖アンデレ教会信徒)
TEL. 072-263-1393
主催 超教派クリスチャン連盟

明るくユーモアのセンスのあるお人柄のためか静かな気持ちでお話を聞くことができました。この世界には説明の出来ない力が働くことがあると話され、骨折後お元気になり、貴重なお話を聞くことができ、たのは本当に感謝でした。伊藤純子さんは神戸聖ミカエル教会オルガニストであり、国内外各地のホールや教会で多くの演奏活動をされています。伊藤さんの奏楽で前奏、後奏、聖歌を歌うこともでき、素晴らしいパイプオルガン演奏(次頁4段目につづく)

大阪教区婦人会

被献日礼拝 聖餐式

2018年2月2日(金)
午前10時30分

大阪聖ヨハネ教会

司式 アンデレ 磯 晴久 主教
説教 セシリア 大岡左代子 司祭
(京都教区 平安女学院大学チャプレン
奈良基督教会副牧師)

釜ヶ崎での講演会とフィールドワーク

「労働者のまち」の昔といまを考える

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

の歴史やそこで暮らす労働者についてお話を伺いました。釜ヶ崎の歴史として堺筋の木賃宿街であった長町(名護町)の話から、高度成長期に労働力を集める場(寄せ場)として大きく機能することになった釜ヶ崎について、そして90年代から現在にかけてを調整したりと、1年近く前から準備を重ねた。開催に至るまでに問題は多々あったが、信徒が丸となった一つひとつを解決していった。例えば、財政的な問題は教区にお願いして宣教協力金を捻出していたり、また、舞台となる高座の設営などは教会委員同士で試行錯誤を繰り返して、ビールケースを組み合わせた頑丈な即席高座を生み出すなどの工夫をこらした。そして、開催日を教会の諸聖徒日礼拝に合わせて集客を計り、前座に「わくわく音楽隊」に入っていたり、マリヤ会(守口の婦人会)と打ち合わせを綿密に行った上で、チラシや

(前頁よりつづく)
奏を聴くことができ、恵まれた贅沢なひと時も過ごせた修養会となりました。
バザー出店もありお茶の用意もしていただいで楽しく和

やかに終わりました。会場となった西宮聖ペテロ教会の信徒の皆様のお働きに感謝とお礼を申しあげます。
(くどうはるみ・東豊中聖ミカエル教会信徒)

去る10月21日(土)、喜望の家(日本ルーテル福音教会)で午後3時から「釜ヶ崎の昔といま」と題した講演会が開かれ、講演会後、午後5時からフィールドワークが行わ

れました。参加者は11人でした。講演会の講師には、釜ヶ崎キリスト教協友会共同代表の吉岡 基さんをお迎えし、日本最大の寄せ場である釜ヶ崎

守口聖オーガスティン教会

笑浪亭で笑ろうて

司祭 ヤコブ 松平 功

去る10月29日(日)、午後2時から守口聖オーガスティン教会において守口オータム

フェスタを開催した。この催しは、「教会の所在を守口の地に示す」というスローガンのもとミニバザーやカフェ



を開催し、出し物として寄席を行うという趣向のものである。バザーのような催しは毎年やっており、今回の目玉は現在人気上昇中の落語会であった。寄席の名称を男子会が「笑浪亭」と名付けたり、落語家の桂香之輔さんとのスケジュール

をもとミニバザーやカフェを開催し、出し物として寄席を行うという趣向のものである。バザーのような催しは毎年やっており、今回の目玉は現在人気上昇中の落語会であった。寄席の名称を男子会が「笑浪亭」と名付けたり、落語家の桂香之輔さんとのスケジュール

ポスターによる宣伝を繰り返して本番を迎えた。しかし当日、運の悪いことに台風が直撃したため36人の集客を数えるのみであった。ただし、教会の所在を守口の地に示すという前述の目標に不備はなく、宣教を継続していくという新たな思いを教会の方々は共有

している。次回は来年1月28日(日)午後2時から、出演者は桂香之輔と林家染吉の二本立ての予定である。守口の宣教のために、ご加勢いただきたい。
(まつだいら いさお・守口聖オーガスティン教会牧師)

第133回「祈りと証しの会」 U26代表 小西宏平さんを迎えて

ペテロ 鈴木 憲二



証し人の小西宏平さん

第133回「祈りと証しの会」は2017年12月6日(水)午後7時から大阪聖パウロ教会にて開催された。しばらくの間、退職聖職者による証しが続いていたが、今回は信徒からの証しとなった。証し人は高槻聖マリヤ教会の小西宏平さん。証し人の紹介では、前高槻聖マリヤ教会の牧師をされていた古澤秀利司祭が、小西兄のことを気持ちに心に触れる真っ直ぐな人と話された。小西兄は現在23歳、大学を卒業後に福祉関係の仕

事に就いておられる。クリスマスチャンであるお母様に教会に連れていかれ、自分の意志で小学生の時に洗礼を、20歳で堅信を受けられた。中学校では水泳やハンドボールを、高校に入ってもスポーツに力をいれていたが、このままでは勉強に力を注げないと高校2年の時に部活を断念するに至った。

高校3年の春休みに釜ヶ崎でのJ'sキャンプに参加し、これが人生のあり方について大きく変えられた機会であったとのことである。大学に入っても釜ヶ崎「ふるさとの家」との関わりあいをつけ、釜ヶ崎のおっちゃんとの信頼関係が生まれ、しばらく行かないとあの兄ちゃんどうしてるのかと言われたこともあるという。これらのことを経て日本聖公会の全国青年組織「U26」の代表となり「知る、つながる、教会の絆」を大切に

第6回 U26 全国集会

響

ひびき

パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体です
コリントの信徒への手紙一 10:16

日程 / 2018年 2月23日(金) ~ 25日(日)

会場 / **アクトパル宇治**
(京都府宇治市西笠取辻出川西1番地)

参加対象 /
1991年4月~2000年3月生まれの青年
※受洗の有無は問いません

参加費用 / 15,000円
※プール制による交通費補助があります。
詳しくはU26右下のQRコード内のブログを
(<http://nस्क-u26.blogspot.jp/>)
をお読みください。

※部分参加の方も大歓迎です。
参加費が異なりますので、
nस्क.u26@gmail.com まで
お問い合わせ下さい。



されている。そのほか大阪教区のグループやキッズのスタッフと、活動される範囲は広い。

神様が共にいてくださり、私たちのつながり、支え合うことをいつも心に留めたいと結ばれた。これからも同兄がますます活躍されることを望みます。なお当日の出席者は41人、献金30,550円は聖ヨハネ学園の働きのために献げられた。
(すずきけんじ・尼崎聖ステパノ教会)

世界の窓

○教会の鐘がエジプト全土に響き渡る
シナイ半島北部のエジプトの都市ビルアルアベッドにあるイスラム教寺院がテロ攻撃を受けた翌日の土曜日、教会の鐘がエジプト全土に響き渡った。これはイスラム教徒の共同体に結束を促すためである。武装勢力が寺院を襲撃する前に爆弾が爆発し、305人の命が奪われ100人以上が病院に送られる事態となった。エジプト聖公会のモウニア・アニス主

教は、攻撃した者を「臆病なテロリスト」と呼びながら深い悲しみを表明した。攻撃された寺院は、禁欲主義を貫くイスラム教の一派であるスーフィ教の共同体で、武装グループは彼らを異端者と見なしていたことが知られている。「今回の血まみれの大虐殺はここ数年で、最も大規模なテロ行為であった。かつては警察や兵隊、そしてキリスト教徒を標的にしていたが、今ではイスラム教徒も攻撃の対象になっている」とアニス主教
(次頁につづく)

(前頁よりつづく)

は語る。ロンドン・コプト教会のアンガロス主教は、土曜日の教会の鐘について「追悼と連帯を、異なる個人、異なる共同体、異なる信仰に対して表現しているのだ」と賞賛の言葉を述べた。

(Anglican Communion News Service, November 27th, 2017)

○マヌス島の難民のために教会がオーストラリア政府に安全を要請

オーストラリアの3つのエキメニカル・グループは連邦政府に対して、マヌス島に難民として収容されていた人々を「安全かつ迅速に、そして家族一緒ということに重大な配慮を持って」再度移住できるようにと要請している。

オーストラリア政府は、自国に難民申請した者の国内滞在を許可せず、パプアニューギニアのマヌス島に拘留センターを建設し、そこに申請者を送還して国外で難民審査を行うという人権を無視した政策を今年まで行っていた。政策が廃止されたことを受け、昨

週パプアニューギニアの権限によって、施設に残留していた328人を新しいキャンプに移送したことで、拘留センターは完全に閉鎖した。現在、移送させられた難民たちは、劣悪な環境のキャンプの中での生活を余儀なくされている。

そこで、オーストラリア・キリスト教協議会をはじめとする3つの団体は「パプアニューギニアで起こっている難民への不法な扱いを嘆くと共に、拘留によって離散させられた彼らの家族たちの将来的な安全を求める」という声明を出した。また、団体は「政策によってこのような悲劇が起こ

るのを予想していなかったのであろうが、オーストラリア政府のリーダーシップのため祈る」と述べ、「我々はオーストラリア政府に難民の安全と家族の連帯、そして再移住を開始する保証を要請する」としている。

(Anglican Communion News Service, November 28th, 2017)

司祭 ヤコブ 松平 功 (まつだいら いさお・守口 聖オーガスティン教会牧師、聖ルシヤ教会管理牧師、プール学院大学チャプレン、守口ぶどうのいえ施設長)

教区の様子

常置委員会報告

10月11日(第12回定例)
11月15日(第13回定例)

I. 主教報告

*11月4日(土)に横浜教区

主教選挙が行われたが、当選者は得られず、90日以内に2回目の選挙が行われる。

*11月30日(木)東北教区主教按手式が挙行され、吉田雅人司祭が受按。これに伴い、ウイリアムス神学館の後任館長は黒田裕司司祭が務められることになった。

II. その他諸報告

*大阪・京都特別協働教区運営委員会から、「協働ニュース」第1号を発行。島崎聖子氏(川口基督教会信徒)に業務協力を依頼。

*2018年度、台湾聖公会との協働プログラムに関して、奥村貴充司祭を長として、大阪からの参加者を中心に検討が始められている。

*桃山学院大学と泉大津市の連携事業、企画展「大阪聖三一神学校卒業生・牛島惣太郎の足跡と日本聖公会史の一面」の案内。

III. 協議事項

*教区会上程議案の確認。
*教区礼拝の在り方について、意見交換。

*2018年度、信徒奉事者推挙につき、各教会から遅滞なく推薦書の書類提出を願うことを確認。

*第120(臨時)教区会日程につき、2018年3月18日(日)15時より主教座聖堂で開催。書記は義平雅夫司祭と金山将司執事。

*3局体制について、総務局

長は内田望司祭、宣教局長はウイルソン・ウォーレン司祭、財政局長は太田幸彦氏に内定を確認。

*来年度の教役者人事につき、情報共有と意見交換。合わせて教区事務所人事について検討。

*今後の教会・関連学校・関係諸施設における聖職者の働きについての課題を共有。

教会・施設の動き

尼崎聖ステパノ教会

○このたび、川西中央霊園に墓地永代使用権を得て、11月4日(土)午前11時より、同地にて墓地聖別礼拝が山本眞司司祭により行われ、約60人の遺骨が納められた。



教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇1月10日(水) 10:30～

於:主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 司祭 ジョージ 林 正樹

- 1日 宣教師 ヘンリー・ラニング (1917 米)
- 司 祭 デイビッド・マーシャル・ラング (1946 英)
- 司 祭 ウイリアム・ロイストン・グレイ (1950 英)
- 3日 主 教 ウイリアム・オードリー (1910 英)
- 司 祭 河合 堯三 (1939)
- 8日 司 祭 テモテ 名出 望 (2015)
- 12日 司 祭 ヨセフ 側垣 基雄 (1965)
- 司 祭 ギデオン 小川 博司 (2002)
- 13日 伝道師 三木 八十五郎 (1918)
- 15日 司 祭 パーシー・A・スミス (1960 米)
- 司 祭 寺本 房吉 (1960)
- 19日 司 祭 ペテロ 宇野 秀太郎 (1944)
- 主 教 アーサー・リー (1958 英)
- 伝道師 今泉 穎子 (1970)
- 20日 司 祭 ヒカル 柳原 光 (1994)
- 主 教 オーガスチン 高野 晃一 (2015)
- 21日 司 祭 久永 光雄 (1937)
- 22日 主 教 ペテロ 松本 寛一 (1980)
- 25日 執 事 卜部 徳太郎 (1933)
- 26日 司 祭 パウロ 井上 進次 (2016)
- 27日 司 祭 サムエル 久保 道則 (2011)
- 30日 執 事 バルナバ 寺沢 久吉 (1945)
- ?日 司 祭 山下 有任 (1903)

◇2月7日(水) 10:30～*

(2月のみ第1水曜日に変更です。)

於:主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 司祭 ダニエル 山野上 素充

- 1日 宣教師 エルザ・M・キーン (1949 英)
- 3日 司 祭 トマス 佐藤 時雄 (1989)
- 5日 司 祭 バークレー・フォーウェル・バクストン (1946 英)
- 8日 宣教師 フランシス・エドワード・ハモンド (1932 英)
- 10日 司 祭 祖山 達三 (1941)
- 司 祭 皆川 晃雄 (1952)
- 宣教師 フローレンス・マリアン・ファジル (1956 英)
- 13日 伝道師 マリア 奥田 ヤス子 (1949)
- 14日 司 祭 J・ハミルトン・クインビー (1882 米)
- 16日 司 祭 ステパノ 久保 登知雄 (1981)
- 17日 司 祭 ジョージ・ヘンリー・ポール 1929 英)
- 19日 伝道師 小橋 かつえ (1964)
- 20日 司 祭 ヨセフ 松岡 安立 (1972)

*教役者逝去記念聖餐式は、原則毎月第2水曜日午前10時30分から、主教座聖堂(川口基督教会)で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

祝 受 洗



○聖贖主教会

マトキン・アレキサンダー

大和

(10月15日)

○西宮聖ペテロ教会

マリア・セシリア

堀 美和

(11月12日)

○西宮聖ペテロ教会

ヨハネ

鈴木 博

(10月24日・93歳)

○大阪聖愛教会

フランシス

小川 義孝

(11月21日・76歳)

○大阪聖パウロ教会

ヨハネ

田中 恒久

(10月28日・93歳)

○大阪聖ヨハネ教会

聖母マリヤ 廣政百々代

(11月25日・89歳)

祝 受 按



○聖贖主教会

イサク

(10月15日)

○川口基督教会

トマス

本田 良一

(8月11日・75歳)

○高槻聖マリヤ教会

テモテ

中島 健三

(11月4日・93歳)

○高槻聖マリヤ教会

ヨセフ

太田 篤宏

(12月10日・50歳)

魂の平安を
祈ります



主のご降誕をお祝いします。中学生の頃、はじめて訪れた教会で聞いたあのクリスマス・メッセージが、時を超えて甦ってきました。原爆投下から72年。戦争を知らない世代の私は、平和と非暴力の実現のために心より祈ります。次号より新体制で編集に臨みます。新しい連載企画にご期待ください。(G)

編集後記